

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『水産業のさかんな地域』

(教科書：『小学社会 5』 p.88~103/学習指導要領：内容（2）ア、イ）

2. 小単元の目標

- 我が国の水産業における食料生産について、自然条件を生かして営まれていることや、食料生産に関わる人々は生産性を高めるよう努力したり、輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、地図帳や各種の資料を通して、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- 我が国の水産業における食料生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や各種の資料で調べてまとめ、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現することができるようにする。【思考力、判断力、表現力など】
- 主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、これからの水産業の発展について考えようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

3. 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業の概要や関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・ 調べたことを文や表などにまとめ、水産業は自然条件を生かして営まれていること、水産業に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食糧生産を支えていることを理解している。	・ 水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見だし、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・ 水産業に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとに、これからの水産業の発展について考えたりして、適切に表現している。	・ 我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・ 学習したことをもとに、これからの水産業の発展について考えようとしている。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の児童は、社会科の学習に興味・関心をもって取り組む児童が多い。その反面、授業導入場面の気づきや疑問についての発言は多いが、課題解決場面における自身で調べた内容をもとに自己の考えを発表する際には、発言が一部の児童に固定化される傾向がみられる。

前時で学習した「米づくりのさかんな地域」の学習では、南魚沼市の米づくりの様子や特徴を高知県南国市と比較しながら学習を進めてきた。また、各家庭から家で食べている米の袋を持参した際に、集まった全ての袋が紙袋でありスーパーなどの店頭で購入したものではなく、米は親族や知人等から直接購入しているという特徴的な地域であることが明らかになった。学習中には、農家の方に話を直接伺ったり、親族から聞き取った内容を自主学習にまとめてきたりするなど、自ら進んで学習に取り組む姿が見られた。

本単元で学習する「水産業のさかんな地域」については、魚を日常的に食べていない児童や魚に苦手意識があり、給食で魚のメニューが出ると残す児童が少なからず在籍しており、水産物について興味・関心が高いとはいえない。

学習においては、「米づくりのさかんな地域」の単元で、米を取り巻く環境の変化や消費量の減少、農業従事者の減少、米のブランド化などについて学んできた。1時間ごとの学習内容については理解できていたが、学習した内容を統合的に関連づけて学習のまとめをすることに課題がみられた。本小単元は生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用など、意欲的に学習してきた「米づくりのさかんな地域」と着目する点は同様である。既習事項を想起したり活用したりすることで、学習への見通しをもち、課題解決を図っていくとともに、社会的事象の見方・考え方をより確かなものにしていきたい。また、各種資料をもとにしながら自分の考えを表現することができるように、ICT等を活用しながら、学級全体で課題解決に向かうことのできる環境を整え、一人一人が自信をもって学習に臨むことができるようにしたい。

(2) 教材について

本小単元は、学習指導要領の第5学年の内容(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」に関する内容のうち、水産業で構成したものである。ここでは、漁業の方法から水あげされた魚が食卓に届くまでの工程、そこに関わる人々の協力関係、ソナーや養殖などの技術の向上、トラックや殺菌した海水などを使い鮮度を保ちながら魚を消費地へ届ける輸送方法、生産から販売までの価格や費用に着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えることができるようにしている。この一連の学習を通して、水産業に関わる人々のはたらき、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解できるようにすることがねらいである。

本小単元の導入では、身近な魚を「浮魚」と「底魚」にグループ分けすることで水産業に関する関心をもち、よく食べている魚はどこでとられ、どのように生産をされているかという疑問を起点にして、水産業について知りたいことや調べたいことを考え、学習問題をつくる。

次に、さんま漁の特色、市場や出荷に関わる人々の様子、とる漁業だけでなく育てる漁業としてのぶりの養殖やブランド化、北方領土との関係等について学習を進めていく。出荷に関わる学習を行う際には、根室の「一本立ちさんま」を中心教材として、鮮度を保ちながら消費者に届ける工夫や努力、

思いなどについて学習を進めていきたい。また、歯舞群島貝殻島産昆布を中心教材として、ロシアに入漁料を支払って漁をしていることや、以前の給食で提供されたさんまは台湾産であるという事実から、今後の日本と外国との関係についても学習をしていきたい。

単元終盤では、輸出により漁業の収入を増やす工夫と持続可能な水産業という内容を取り扱うことで、水産業における特色や相互の関連、意味を多角的に考え表現する活動を設定する。我が国の水産業を安定して継続していくために、我が国の国民として今後の水産業の発展について考えることができるようにしていきたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、主に「食料生産に関わる人々の工夫や努力」という事象に着目できるようにし、米づくりのさかんな地域で学習した内容と「関連づける」「総合する」ことで、社会科の見方・考え方をはたらかせた学習にしていきたい。

単元導入の課題把握段階では、身近な魚についての資料や主な漁港の水あげ量等の資料から「生産物の種類や分布」に着目し、我が国には暖流と寒流が流れ込んでおり豊富な種類の水産物がとれること、養殖業も各地で営まれていること、北海道の根室港ではさんまの水あげ量が多いことなどを調べ、これらを「総合する」（「総合して考える」）ことから、単元の学習問題を設定できるようにしたい。

単元中盤の課題追究段階では、「一本立ちさんま」や「貝殻島産昆布」などの事例から、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉えることができるようにしたい。また、生産量の変化、外国との関わりなどに着目して、これらを「総合する」ことによって、水産業における食料生産の概要を捉えることができるようにしたい。

単元終盤の課題解決段階では、課題追究によって捉えた「水産業に関わる人々の工夫や努力」を「総合する」ことと、それらとその土地の自然条件や需要を「関連づける」ことによって水産業に関わる人々の働きを多角的に考えることができるようにしたい。その活動を通して、水産業における食料生産が国民生活に果たす役割について考えを深めることができるようにしたい。

5. 小単元構造図

つかむ (課題把握)	出会いの情報や資料：魚の絵（8枚）/主な漁港の水あげ量、養殖地の収穫量がわかる地図 ①水産物はどこで獲られているのか 学習問題：水産業がさかんな地域の人々は、どのような工夫や努力をして魚をとり（養殖し）、消費者（私たち）に届けているのだろう。 予想 ・機械を使って、効率的にさんまをとっている ・農業のように、みんなで協力して魚をとっている ・とった魚を米づくりの単元で学習したカントリーエレベーターのような場所で保管している	(社会的な事象の見方・考え方) ①水産業が盛んな地域の位置に着目する	(主な資料) ・日本の主な漁港の水揚げ量と養殖地の収穫量がわかる地図 ・浮魚、底魚の絵
調べる (課題追究)	②さんまの漁はどのように行われ、どのような工夫や努力があるか ③さんまを出荷するまでに、どのような工夫や努力があるか ④水産物はどのような人々のどのような工夫で消費者に届けられているか ⑤ぶりの養殖はどのように行われ、出荷するまでにどのような工夫や努力があるか ⑥水産業にはどのような課題があるか ⑦水産業を続けるために、どのような工夫や努力がなされているか	②生産の工程に着目する ③鮮度を保つ工夫に着目する ④輸送に着目する ⑤人々の協力関係に着目する ⑥生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目する ⑦水産資源の保護と輸出を関連づける販売方法を工夫する	・p.90 イ「さんま漁の様子」 ・一本立ちさんまのチラシ ・養殖ぶりの写真 ・p.98 エ「日本の漁業生産量と、水産物輸入量の変化」 ・北方領土の写真 ・さんまの漁場の変化を表す地図 ・養殖・栽培漁業についての資料 ・さんまロール寿司、いわしロール寿司の写真
まとめる (課題解決)	⑧水産物はどのような人々のどのような努力や工夫で消費者に届けられているか 単元の学習のまとめ：我が国の水産業は生産性や品質を高める努力、輸送方法や販売方法を工夫したり、外国と協力したりして、国民の食料を確保する重要な働きをしていることがわかった。	⑧食料生産が国民生活に果たす役割を考える	・漁業生産量の変化と世界の水産物の消費量の変化

6. 小単元の指導計画（総時数8時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	自分たちがよく食べている水産物の種類やその産地に着目して、日本の水産業について関心をもつことができるようにする。 水産業のさかんな地域の人々の工夫や努力について学習問題を設定することができるようにする。	○魚の絵(8枚)から食べた経験や名前を話し合い、グループ分けをする。 ・どのような水産物を食べているか ・どのような特徴があるか ○各自が考えた内容から課題を設定する。 よく食べている魚は、どんなところでとれるのだろう。 ○課題について話し合う。 ・寒流・暖流について ・日本沿岸の漁場について ・浮魚は群れをつくり回遊する ○学習した内容から疑問を考える。 ○漁法の工夫および養殖業の工夫について考えることで学習問題を設定する。	◎原寸大イラスト「鯖、鰯、鰯、秋刀魚、鮪、鰹、鰹、鰹」 ◎図「日本の主な漁港の水あげ量と、養殖のさかんなところ」 ◆日本の水産業について、関心をもって調べようとしている。(態/発言・ノート)
	学習問題：水産業がさかんな地域の人々は、どのような工夫や努力をして魚をとり（養殖し）、消費者（私たち）に届けているのだろう。		
		・とり方 ・育て方の工夫・努力 ・運び方の工夫・努力 ○学習問題について予想を立て学習計画を考える。 ・農業のように協同組合があるのか ・どのような機械を使っているのか	◆生産方法や協力関係、輸送に着目して問いを見だし、表現している(思・判・表/発言)
② (調べる)	北海道・根室のさんま漁の様子に着目して、漁師さんたちの漁の工夫を捉えられるようにする。	○北海道・根室のさんま漁の様子を調べる。 ・ソナーで魚を探していること ・集魚灯で魚を集めていること ・網で魚をとっていること	◎NHK for School「沖合漁業～サシマ・カニ～」 ◆北海道・根室のさんま漁の様子を調べて、さんま漁の工夫を理解している。(知・技/発言・ノート)

③ (調べる)	根室港の様子やさんまの水あげから箱詰めまでの様子を調べることを通して、品質を高める工夫や努力、出荷にかかる費用と値段との関係について捉えられるようにする。	○水あげ後のさんまのゆくえや魚の値段と費用などについて調べ、漁港で働く人々の工夫や努力を理解する。 ・水あげ量による値段の変化	◆水あげしたさんまを新鮮なまま出荷するための工夫や努力、さんまの値段の決まり方、漁や出荷にかかる費用について理解している。(知・技/発言・ノート)
④ (調べる)	生産地から消費地への輸送を調べることを通して、産地と消費地を結ぶ流通や輸送のはたらきと、それに関わる人たちの工夫や努力を捉える。	○水あげ地から消費地に運ばれるまでの過程と輸送手段、かかる費用を調べる。 ・鮮度、安全性を保つ仕組み（一本立ちさんま） ・輸送方法 ・輸送費	◎一本立ちさんまのチラシ ◆さんまが生産地から消費地へ届くまでには、さまざまな輸送の方法やそれに関わる人たちの工夫や努力があることを資料から的確に読み取っている。(知・技/発言・ノート)
⑤ (調べる)	鹿児島県長島町の、自然条件を生かしたぶりの養殖の様子に着目して、品質や安全性の高い魚を安定して出荷するための工夫や努力を捉えることができるようにする。	○養殖における品質や安全性の高い魚を安定して出荷するための工夫や努力を理解する。 ・養殖の様子 ・出荷から消費地に届くまで	◎長島町の ^{ぶり} 鰯王、 ^{ゆず} 柚子鰯王、氷見の鰯の写真 ◆ぶりを育てるうえで必要な環境や設備、作業について資料から的確に読み取り、養殖業の特色や仕事上の工夫や努力について捉えている。(知・技/発言・ノート)
⑥ (調べる)【本時】	水産業を取り巻く変化について調べることを通して、安定した漁の困難さや水産物生産量の減少や外国との関係による漁の制限などの日本の水産業の課題について捉えることができるようにする。	○安定した漁の困難さや水産物生産量の減少、外国との関係などの水産物を取り巻く変化と課題について理解できるようにする。 ・一本立ちさんま/給食提供のさんま（台湾産） ・日本の漁業生産量の減少 ・外国からの輸入 ・北方領土との関係性（歯舞群島貝殻島産昆布）	◎一本立ちさんまのチラシ、給食の写真（台湾産さんま）、さんまロール寿司のチラシ、歯舞群島貝殻島産 ^{さおまえ} 棹前昆布（実物）、200海里水域の地図 ◆複数の資料を比べたり関連づけたりして、漁業が抱えている課題について調べたことをもとに、漁業に携わる人たちの願いについて考え、表現している。(思・判・表/発言・ノート)

⑦ (調べる)	持続可能な水産業を目指す取り組みに着目して、安定した水産業を続けるために、世界の国々が水産資源の管理に取り組んでいること、国内でも様々な取り組みが行われていることを捉える。	○水産業を続けるために、世界全体で水産資源の管理に取り組むこと、世界の消費者も相手にしながら生産・出荷を進めることの重要性を理解できるようにする。 ・200海里水域 ・国際的な団体が認めた水産物の表示	◆水産業に関わる人たちは、安定した生産を続けていけるよう、水産資源の管理や海の環境保全において、様々な取り組みを進めていることを捉えている。 (知・技/発言・ノート)
⑧ (まとめる)	これまでの学習を整理して、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの水産業の発展について、自分の考えをまとめ表現できるようにする。	○学習してきたことをもとに、消費者、水産業に関わる人々の工夫や努力、技術の向上、養殖、価格や費用との関連を話し合う。 ・水あげ ・せり ・育てる漁業 ・水産資源の管理 ○レポートに整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめる。 ・水産業で働く人々の工夫や努力	◆水産業に関わる人々の工夫や努力について整理したことを統合して、品質や安全性に配慮していること、様々な変化や課題に対応しようとしていることなどを考え、適切に表現している。 (思考・判・表/ノート・ICT 端末) ◆今まで学習したことを生かし、安全で質の高い水産物をこれからも生産し続けるために大切なことについて、消費者や生産者の立場から考えてまとめようとしている。(態/ノート・ICT 端末)

7. 本時の指導 (第6時)

(1) 本時のねらい

水産業を取り巻く変化について調べることを通して、安定した漁の困難さや水産物生産量の減少や外国との関係による漁の制限などの日本の水産業の課題について捉えることができるようにする。

(2) 準備物

- 一本立ちさんまのチラシ ・さんまロール寿司のチラシ ・給食の写真 (台湾産さんま)
- 貝殻島産昆布 ・掲示資料 (教科書 p.98 エ、p.99 オ・カ) ・さんまの漁場の変化を表す地図
- ICT 端末

(3) 本時の展開

学習活動・内容	予想される児童の反応	○支援 ◆評価
1. 一本立ちさんまの出荷が難しくなっていることを知り、疑問をもつ。 ・給食のさんま＝台湾産 ・根室さんまロール寿司→いわしロール寿司に	・さんまが不漁というニュースを見た ・さんまがとれていないから、出荷できていない（これまでにとりすぎた） ・「鰯王」は計画的に出荷していたけれど、さんまの不漁は無計画にとりすぎた結果ではないか？ ・暖かい台湾でさんまがとれるの？ ・台湾からさんまをとりに来ている＝儲かる ・さんまの代替品として、いわしが使われるようになった	○前時の振り返りを掲示し、本時の学びを生み出したり、これまでの学びを想起できるようにする。 ○教科書 p.98 図のグラフから、養殖業は安定していることを確かめ、養殖業と「とる漁業」とを対比して考えるようにする。
2. ロール寿司に使われる貝殻島の棹前昆布が「幻の昆布」と呼ばれていることを知る。	・取れる量が少ないから「幻」 ・地図で見たら貝殻島＝北方領土だ ・自由に漁ができないのかな？	○地図帳で貝殻島の位置を調べ、根室半島（納沙布岬）からわずかの距離（3.7 km）であることを確認する。
3. 課題を設定し、予想を立てる。 ・児童の疑問を起点に、本時の課題を設定する	本時の課題 とる漁業（根室のさんま・昆布）には、どのような問題が起きているのだろうか？ ・地球温暖化でさんまが不漁になっている ・ロシアが不法占拠しているから、自由に昆布の漁ができない	○児童の「なぜ」から課題を設定し、児童と確認する。
4. 予想をもとに資料で調べ、話し合う。	・漁場が遠い→燃料代が高くなる ・200 海里の外＝外国の船とのとり合い →だから、台湾産のさんまを輸入 →とりすぎになっている？ ・貝殻島＝北方領土 →自由に漁ができない（定められた期間・入漁料） →水産物の種類・量が大きく制限 ・さんまの不漁とロシアの不法占拠により、水産業の仕事を続けていけなくなるのではないか	○配付資料、教科書、資料集、友達との相談など、自分に適した解決方法で調べるように指示する。 ○生産が不安定になっている要因を整理し、「とる漁業」が抱えている課題を明確にしていけるようにする。

5. まとめをする。 まとめ 自然環境の変化や外国との関係で、生産が不安定になっている。だれが、どのように解決したらいいのだろう。 6. 振り返りをする。 【振り返りの視点】 ・わかったこと ・自分の生活との関わり ・もっと知りたいこと	振り返り 私は自分が食べている魚の生産量が減っていることに驚きました。北方領土のことにも関心をもっていきたいと思います。	◆複数の資料を比べたり関連づけたりして、漁業が抱えている課題について調べたことをもとに、漁業に携わる人たちの願いについて考え、表現している。(思・判・表/発言・ノート) ○板書を撮影し ICT 端末で児童に送り、家庭で振り返りを書くことができるようにする。
---	---	--

8. 板書計画

①一本立ちさんまの写真

②給食の写真
(台湾産さんま)

本時の課題 とる漁業(根室のさんま・昆布)には、どのような問題が起きているのだろう？

・水産物の種類・量の制限
・定められた期間だけ

×出荷量が減っている

③さんまロール寿司の写真

・冷凍
・暖かい場所なのに…

④貝殻島産昆布の写真

⑤貝殻島の地図

さんまの不漁

北方領土での漁

×さんまロール寿司
→いわしロール寿司
↓
さんまの不漁とりすぎ？

・貝殻島産棹前昆布
=幻の昆布

北方領土
貝殻島産

・海水温の変化
→さんまが日本の近くに来ない
・回遊ルートの変化
→200 海里の外が漁場
↓
・1 回の漁に 5～7 日かかる
→燃料増、鮮度が保てず、一本立ちさんまにならない
・外国船とのとり合い→不漁

・ロシアが不法占拠=自由に漁ができない
・ロシアに入漁料=^だ拿捕されないように

このままでは、水産業の仕事が続けられないのでは？

まとめ 自然環境の変化や外国との関係で、生産が不安定になっている。だれが、どのように解決したらいいのだろう。

振り返り 私は自分が食べている魚の生産量が減っていることに驚きました。北方領土のことにも関心をもっていきたいと思います。